「在宅生活ハンドブック No.２」

車いすの維持管理と基本操作

別府重度障害者センター
（理学療法部門 2013）

もくじ

はじめに

座位保持や歩行が困難な方にとって、車いすは生活に欠かせないものです。車いすに乗ることで、様々な活動が可能となり、操作することで有用な移動手段となります。しかし、車いすや座クッションを適切な状態で管理しておかないと、車いすの乗り心地が悪くなるだけではなく、怪我や褥瘡の発生につながりかねません。

また、皆さん自身では操作が困難な場所や、外出先では他者に介助をお願いする場面もあるかと思います。このハンドブックでは、車いす及び座クッションの基礎的な知識と適合した車いす、シーティング、外出先での介助方法について解説することにしましょう。

Ⅰ　車いすの基礎知識

1. 車いすの種類と取り扱い

（1）車いすの種類と特徴

① 手動車いす

車いすには、大きく分けて手動のものと電動のものがあります。手動車いすには自走用（普通型）と介助用（手押し型）があります。

ア. 自走用（普通型）車いす

特徴：駆動輪（大きな車輪）の外側についているハンドリム（P4 の図を参照）を自身の力で押して車いすを動かします。折りたためるものと、折りたためないものがあります。

イ. 介助用（手押し型）車いす

特徴：介助者に押してもらうタイプの車いすです。後ろに介助者用のハンドルグリップが付いています。

手動車いすの種類	
自走用（普通型）車いす	介助用（手押し型）車いす

② 電動車いす

電動車いすには、普通型と簡易型（A：切替型　B：アシスト型）などたくさんの種類があります。次に、主な普通型電動車いすと簡易型電動車いすの種類を説明しましょう。

ア．普通型電動車いす

・普通型電動車いす

特徴：　コントローラーに付いているジョイスティックレバーを操作することで車いすの進行方向やスピードを変えることができます。最高速度が４．５km/hと６．０km/hの２種類があり、バッテリーが満充電の状態であれば約３０km程度の連続走行が可能です。ジョイスティックレバーも、手指の機能状態や操作の仕方によって様々な種類があります。

・リクライニング式普通型電動車いす

特徴：　背もたれの角度が調整できるタイプです。リクライニング機能によって休息姿勢をとることができますが、良好な頭部支持機能は低く、おしりが前にずれてしまうすべり座位になりやすいので注意が必要です。

・電動リクライニング式普通型電動車いす

特徴：　リクライニング機能を自身で電動で操作できるタイプです。

・電動リフト式普通型電動車いす

・電動ティルト式普通型電動車いす

・電動リクライニング・ティルト式普通型電動車いす

特徴：　背もたれと座面の角度などが調整できるタイプです。体の支持面全体の角度を変えられるティルト機構とリクライニング機構を併用することで、休息姿勢をとる際にもすべり座位になりにくく、臀部の除圧も可能なため、褥瘡予防の効果もあります。

普通型電動車いすの種類		
普通型電動車いす	電動リクライニング式普通型電動車いす	電動リクライニング・ティルト式普通型電動車いす
	30°	

【簡易型電動車いす】

ア. 切替型電動車いす

特徴: 手動式車いすの駆動輪に小型の電動ユニットを取り付けることで、車いすを電動化したものです。普通型の電動車いすより軽量な上、折りたたみが可能で自動車への積み込みも容易です。最高速度が4.5km/hと6.0km/hの2種類があり、バッテリーが満充電の状況であれば約10kmの連続走行が可能です。

イ. アシスト型電動車いす

特徴: ハンドリムを握ってこぐ動作を、電動モーターの力で補助してくれるタイプです。電動アシスト付きの自転車と同じ仕組みで、手動車いすでは登り坂や長時間の走行が困難な方に適しています。

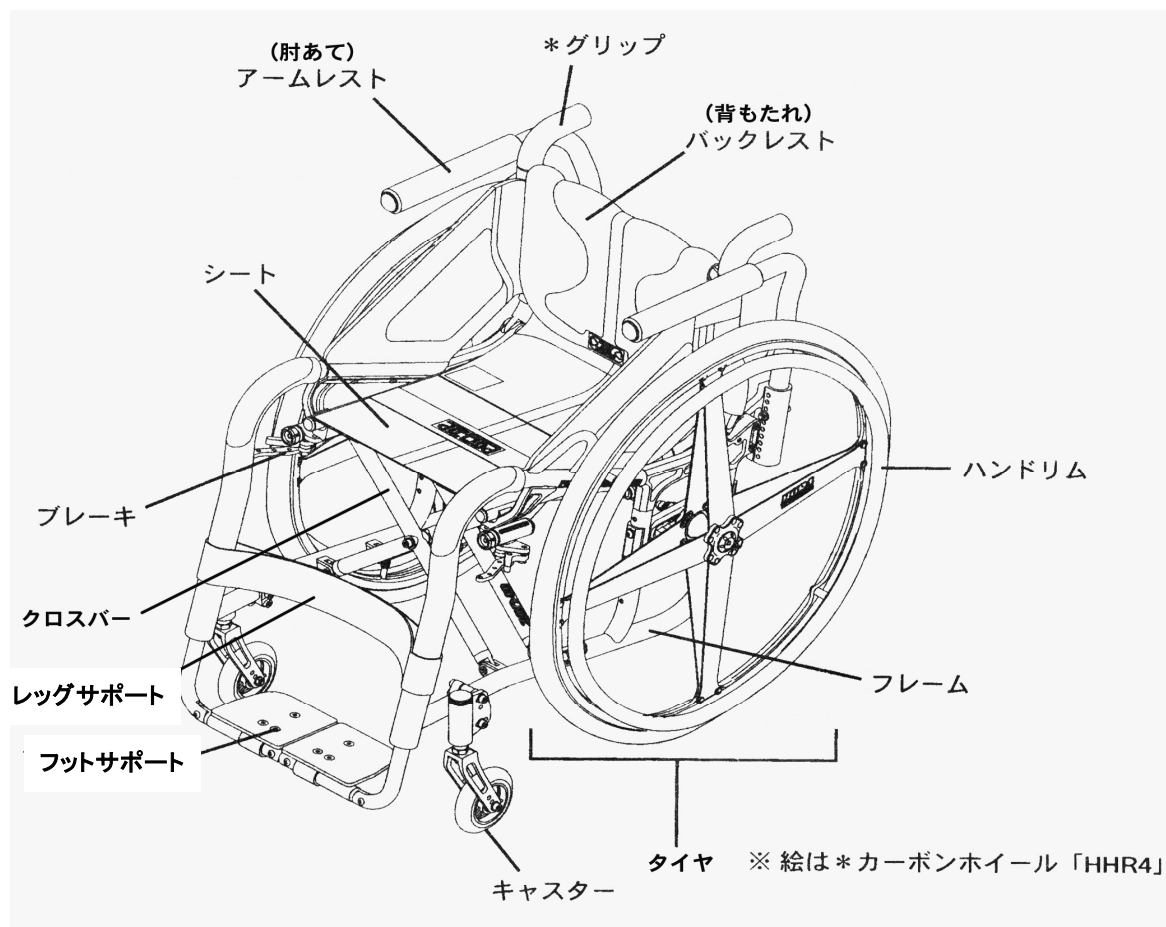
簡易型電動車いすの種類	
切替型電動車いす	アシスト型電動車いす

このように、一般的にはジョイスティック（コントローラーの操作レバー）を操作して走行するタイプを総称して電動車いすといいますが、この他にも介助用のものや、3輪・4輪のいわゆるシニアカーや電動カートといわれるものもあります。普通型の電動車いすでは、歩行者と同じ目線にするためや駆動系の装置が付いているため、一般的に普通型の車いすよりも座席が高く設計されていますが、最近では低床型や昇降型のタイプもあり選択肢が広がっています。

車いすは、目的や用途にあわせていろいろなタイプの中から選択することができます。身体機能の変化等から現在使用中の車いすから他種類のものに変更する場合にはセラピストや専門の業者に相談してください。

（2）車いすの各部の名称

車いす修理等でその内容を明確に業者に伝えるためには、各部の名称を知っておくことも大切です

※ 絵は＊カーボンホイール「HHR4」

2. 車いすの取り扱い

（1）車いすの取り扱い

① 車いすの折りたたみ方

ア. 折りたたみ用ベルトがある場合

　最初にフットサポートを折りたたみます。次に折りたたみベルト中央を持ち上げ、左右のシートパイプの先端合わせて確実に折りたたみます。このとき、手を挟まないように注意してください。

　なお、折りたたみベルトがない場合はシート中央の前後の端を持ち上げ左右のシートパイプの先端部を合わせて確実に折りたたみます。

② 車いすの持ち方

　背もたれの上端のグリップとフットサポート上方のしっかりとしたフレームパイプを持って運びます。タイヤやブレーキなどの可動部分は、手を挟む危険があるので、持たないようにしてください。

③ 車いすの開き方

　フレームの前方を持って少し開き、手を挟まないように注意しながらシートパイプを下方に押し広げ、確実にロックするまで開きます。セパレートタイプのフットサポートの場合は、左右のフットサポートを開きます。

④　車いすのタイヤの空気の入れ方

最初にタイヤの空気注入口のバルブの種類を確認します。（バルブの種類によっては、空気入れとの間にアタッチメントが必要な場合があります。）タイヤの種類によって適切な空気圧が異なるため、タイヤの側面に書いてある標準的な空気圧を確認します。通常の車いすの場合は３～４気圧（BAR）、高圧タイヤの場合は７．５気圧（BAR）が平均的な空気圧です。高圧タイヤの場合、スポーツ用など製品によっては１３～１４気圧（BAR）のタイヤもあります。

目安としては、タイヤを手で押した時にやや硬いと感じる程度（軟式野球ボール程度）です。最寄の車いす販売店の他には、自転車販売店やガソリンスタンド（店舗によっては有料）で空気を入れてくれるところもありますが、ハンディータイプのコンプレッサー（空気入れ）を持っていると便利です。

３．車いすのメンテナンス

車いすを正しく安全に使用するには日常的な点検は欠かせません。皆さん自身や介護者でも可能な簡単な点検のほか、異常な音がしないか、ネジの緩みがないかなどの定期的な点検も1ヶ月に一度程度は行うようにしましょう。

点検の結果、異常があった場合は、早めに車いす販売店やメーカーに連絡して修理の依頼をしてください。

（1）車いすの点検項目

①日常的な点検項目

ア．手動車いすの場合

ａ　駆動輪の確認

・　タイヤに空気が十分入っていますか？
・　空気注入口のバルブが緩んでいませんか？
・　タイヤに傷が付いたり、異物が刺さったりしていませんか？

・ タイヤの溝は少なくなっていませんか？　タイヤが変形していませんか？

b ブレーキの確認

・ ブレーキは正しく作動しますか？

・ ブレーキをかけた状態で駆動輪が回転しませんか？

c 肘掛け、フットプレートの確認

・ フレームにしっかりと固定されていますか？

・ ネジが緩んでセッティングがずれたりしていませんか？

・ セパレートタイプのフットレストの場合はスムーズに動かせますか？

・ 肘掛け、フットレストプレートに亀裂や破損はありませんか？

d その他の各部品

・ 全体的なガタつきはありませんか？

・ 座クッションなどがきちんと取り付けられていますか？

・ 各部のボルトやナットが緩んでいませんか？

イ. 電動車いすの場合

電動車いすの場合は、手動車いすの点検項目に加えて、バッテリーなど次の項目の管理も必要です。

a バッテリー

・ 残量は十分にありますか？　充電後満充電になっていますか？

・ 充電器などから異常な音がしたり、充電できないといった異常はありませんか？

b 電源ボタン、速度調節、ホーンが正常に作動しますか？

c 電動／手動の切替がスムーズにできますか？　異常はないですか？

d 駆動輪から異常な音がしませんか？

e ジョイスティック操作に不具合はありませんか？

f 電気配線、コードに絡みや破損はないですか？

②定期的な点検項目

a タイヤの空気圧は正常ですか？

空気入りタイヤを使用している場合、空気圧の低下に注意してください。タイヤの空気は、性質上自然と減ってきますので、1ヶ月に1度は空気を入れ、適切な空気圧（P6 参照）を維持してください。空気圧が低すぎると車いすの駆動が重たくなり、ブレーキのかかりも悪くなります。逆に空気圧が高すぎると、タイヤのクッション性が低下します。

b　タイヤの溝は十分認識できますか？

タイヤの溝の減りが激しいものは、パンクの原因になったり、走行性やブレーキの効きが悪くなるので交換が必要です。また、年数が経つとタイヤやキャスターのゴムがひび割れてきますので注意してください。

c　ブレーキはしっかり効きますか？

タイヤの空気圧が減っているとブレーキの効きは悪くなります。空気圧のチェックとともに、ブレーキの取り付けネジの緩みやブレーキ本体のガタつきなどがないかなども確認してください。

d　異常な音がしませんか？

まずは、どこから音が発生しているかを確認してください。ベアリング部の油分が不足している場合や各所のネジに緩みがあるなど、さまざまな原因が考えられます。

e　四点接地していますか？

前輪（キャスター）の二輪と後輪（駆動輪）の二輪が接地しているかどうか確認してください。四点接地していない場合、フレームの歪みやネジの緩み、前後車輪の歪み等が考えられます。

f　まっすぐ進みますか？

平地で車いすを左右平等な力で押してみて、自然に曲がって進んでいく場合は、車いすのどこかが歪んでいる可能性があります。

g　シートの破損やたるみ、座っていて痛みはありませんか？

湿気の影響や長期間車いすを使用すると、シートに破損やたるみが発生している可能性があります。座り心地が悪くなったり姿勢の保持が難しくなったりしますので、破損やたるみが著しい場合はシートの交換が必要です。

h　ネジの緩みはありませんか？

車いす全体にガタつきがある場合は、各所のネジの緩みや脱落が考えられます。そのような状態で乗車し続けることは大変危険です。

（2）故障・修理時の対処方法

車いすが故障した場合は、速やかに車いす販売店やメーカーに連絡してサポートを受けましょう。こうした場合に備えて、日頃から車いすを購入した販売店や最寄りの販売店、車いすメーカー営業所等の連絡先を把握しておいた方がよいでしょう。故障の箇所や程度によっては、修理に時間を要することもあり、しばらくの間は販売店やメーカーから代車を借りて過ごす場合も考えられます。クッションやその他の必要備品に関しては、スペアを購入しておくことも検討してください。

なお、補装具支給制度（障害者総合支援法、労働者災害補償保険制度など）で支給された車いすや座クッションの故障・再調整等が必要となった場合は、購入時と同様に申請手続きを行い、修理が適切であると決定されれば修理費用の支給を受けることが可能です。お住まいの市町村窓口、労働局、労働基準監督署にお問い合わせください。

※ 補装具の申請・修理等の詳細は、「在宅生活ハンドブック No.1「補装具・日常生活用具等の申請手続き」）を参照してください。

Ⅱ 座クッションの基礎知識

1 座クッションの種類と取り扱い

（1）座クッションの種類と特徴

脊髄損傷や神経疾患がある方の場合は、臀部の感覚が消失又は鈍麻の状態にあることが多く、自身で除圧することが困難なため、車いす乗車中に褥瘡が大変できやすくなります。適切なクッションを使用することで、臀部にかかる座圧を分散・軽減することができますので、車いすに乗る際は必ずクッションを使用するようにしましょう。

臀部の状態は個人によって異なりますので、どの程度の圧力や時間をかけると褥瘡が発生するかを考慮した上でそれぞれのクッションの長所と短所を理解することが大切です。現在使用している座クッションから他のクッション変更する場合は短時間の試用からはじめ、乗車後は必ず臀部チェックをするようにしましょう。

主な座クッションの素材とその特徴は次のとおりです。

<table>
<tr><td colspan="4">座クッションの素材と特徴</td></tr>
<tr><td>空気</td><td>ゲル</td><td>ウレタン</td><td>複合</td></tr>
<tr><td>【長所】
・圧分散力が高い。長時間座っていても臀部が痛くなりにくい。
・長時間使用しても変形が少ない。
【短所】
・空気量の管理が定期的に必要。
・空気が移動するため座位バランスが不安定に感じる場合がある。
・パンクする可能性がある。</td><td>【長所】
・衝撃吸収力に優れ、経年変化がおきにくい。
・横方向や剪断方向への力を緩和できる。
【短所】
・クッション自体が重い。
・長時間の座位で蒸れやすい。</td><td>【長所】
・切り貼り等の加工がしやすい。
・比較的安価である。
【短所】
・圧分散力が弱い。
・水分や日光によって劣化しやすい。
・長時間の使用でへたりやすく寿命が短い。</td><td>【長所・短所】
各種材質を組み合わせたクッション。それぞれの材質を組み合わせることにより、効果を高めたり、短所を補ったりできる。除圧効果等は組み合わせや商品によって異なる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">代表例</td></tr>
<tr><td>①ロホ</td><td>②エクスジェル

③アクションパッド</td><td>④アルファプラ

⑤ラテックス</td><td>⑥J３クッション

⑦ソロ</td></tr>
</table>

＜購入先、問い合わせ先＞

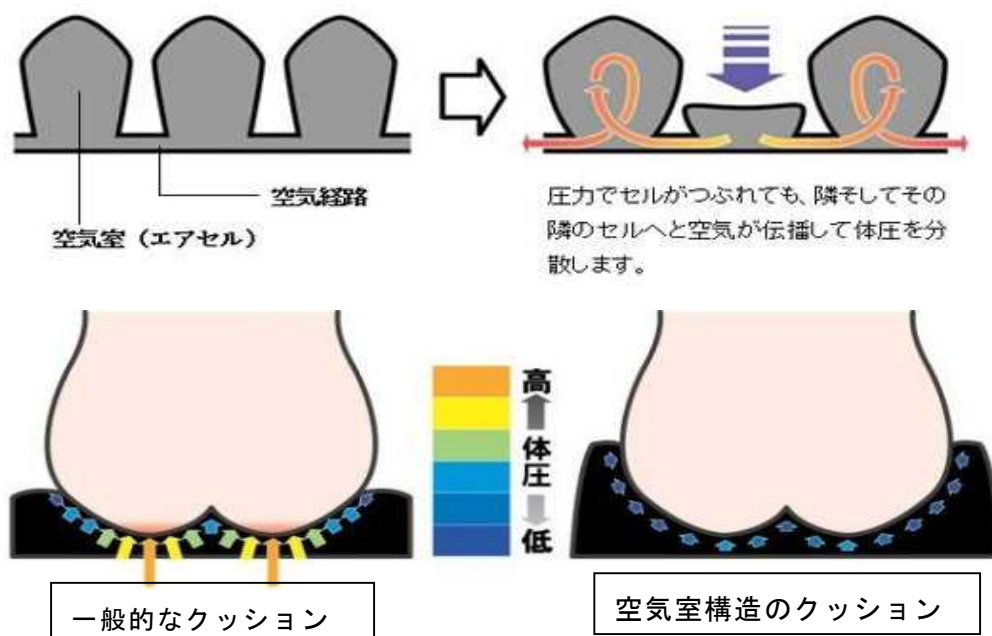
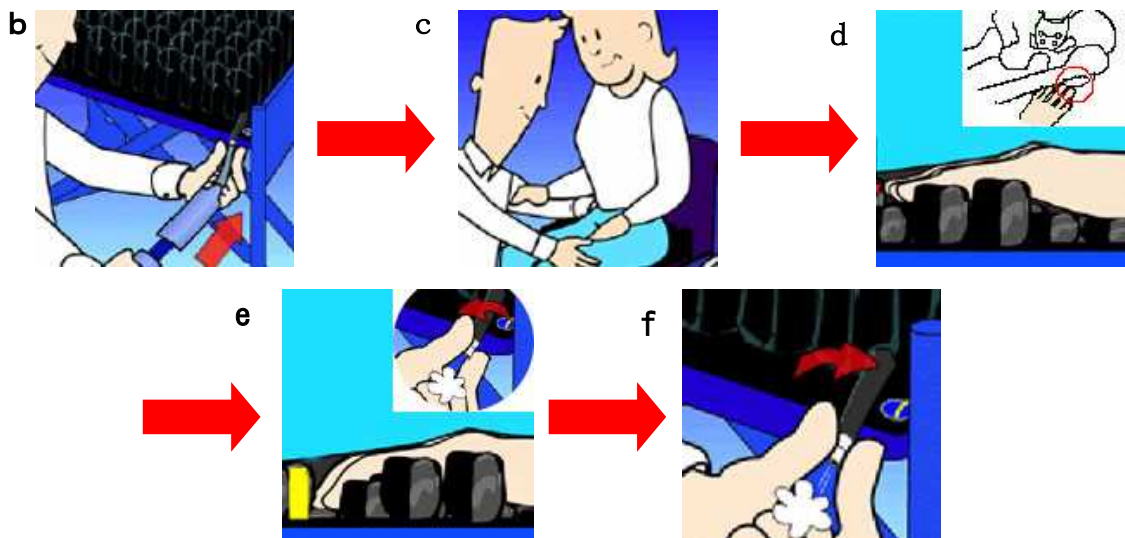
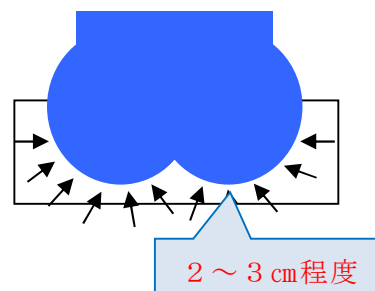
① アビリティーズ・ケアネット（株） http://www.abilities.jp
② 株式会社　加治 http://www.exgel.jp
③ アクションジャパン（株） http://www.actionjapan.co.jp
④ 株式会社タイカ http://www.taica.co.jp
⑤ グローバル産業（株） http://www.bodydoctor.co.jp
⑥ アクセスインターナショナル（株） http://www.accessint.co.jp
⑦ ユーキトレーニング（株） http://www.yukitrading.com

（２）座クッションの取り扱い

① 空気室構造の座クッションの調整方法

除圧効果が高い座クッションとして、ロホクッションのような空気室構造のクッションは広く利用されています。

空気室構造の座クッションは、クッション内の空気量を調節することで、坐骨や尾骨など骨突出部の沈み込みを作り、臀部とクッションの接触面積を広げることで、骨突出部に局所的な圧力がかかることを防ぎ、座圧を分散させています。

クッションの機能を最大限に発揮させるためには、自身の体重や身体の特性等を考慮して、空気圧を常に適切に保っておくことが大切です。

次に、空気圧調整の簡単な調整方法を紹介します。
例：ロホクッションなど空気注入口がひとつの場合の空気圧調整

a　バルブを左（反時計まわり）にまわして緩めます。ポンプをバルブに差込み、クッションが膨らむまで空気をいれ、いったんバルブを閉めます。
b　クッションの上に車いす利用者が座ります。
c　坐骨（おしりの骨の出ている部分）とクッションの間に手を入れます。（手のひらを下にして、クッションと臀部の間に入れ込みます。）
d　バルブを少し開き、指を動かしながら指がクッションの底面に触れる直前くらい（隙間が概ね２～３cm）になるまで空気を抜き、（下にした手のひらを押し下げて２横指分程度沈み込む状態）バルブを右（時計まわり）にまわして閉じます。

※　ロホクッションにも様々な種類があります。空気の注入口がひとつのもの以外に、注入口が複数個あって左右の臀部と大腿部の空気圧を別々に調節できるタイプ（ロホクッション　クワドトロ）もあるため、空気の入れ方は一様ではありません。商品に付属されている取り扱い説明書にも詳しく記載されていますので、使用前に確認してください。
（ロホクッション基本の空気調整方法：　http://www.abilities.jp　）

２ 座クッションのメンテナンス

（１）座クッションのチェック方法

ア. 空気室構造のクッションの場合

a 空気の量が少ない、または多くありませんか？

空気量が少ないと、坐骨や仙骨が底づきしてしまいます。また、空気の量が多すぎると沈み込みが少なくなり、圧の分散効果が薄れてしまいます。

bクッションに破損や汚れはありませんか？

空気室や空気注入口（注入バルブ）に破損があると、空気が漏れてしまいます。また、汚れをそのままにしておくとゴムの劣化にもつながります。

イ. 空気室構造以外のクッションの場合

a 素材（ウレタン、ゲル）の劣化はありませんか？

素材が劣化していくると、クッション本体が硬くなり、除圧効果が薄れてしまいます。

b クッションに破損や汚れはありませんか？

（２）空気室構造以外の座クッションの取り扱い

ア. ゲルクッション

ゲルクッションは、流動性のゲルを使用することで、座位時の臀部を包み込むようにゲルが流動・変形することで、衝撃の吸収や圧力分散を行います。また、座っている間は、ゲルは変形した形状を保つため、姿勢のズレが少ないことが特徴です。ゲルの素材は、合成ゴムやシリコンなど商品によって異なりますので、ゲルの性質をよく理解して使用しましょう。

なお、クッション本体が汚れた場合は、薄めた中性洗剤を布に含ませて拭きとります。強塩素系、酸・アルカリ性の洗剤や漂白剤、アルコール等は通常使用できません。また、直射日光に当てたり高温となる場所に長時間放置すること、あるいは水気のある場所での使用は、ゲルの劣化につながるため避けましょう。クッションの種類によって取り扱い方法は様々です。詳しくは、商品に付属されている取扱説明書をご参照ください。

イ. ウレタンクッション

除圧効果のあるウレタンクッションの多くは、発砲ウレタン、低反発ウレタン、エステル系ウレタン、チップウレタンなど様々なウレタン素材を組み合わ

せて作られています。硬さや機能の異なるウレタン素材を組み合わせ、上部はやわらかいウレタンで臀部を包み込み、下部は比較的硬いウレタンで底づきを防ぐための厚みを持たせた多層構造の商品が多いようです。

　クッション本体が汚れた場合は、硬く絞ったタオルで軽くたたくようにして汚れを落とし、風通しのよい場所で陰干ししてください。ウレタンクッションは劣化しやすく、時間の経過によってへたりが生じてしまうため、臀部が底づきしたり姿勢の崩れにつながる場合があります。直射日光を当てることや高温となる場所に長時間放置すると劣化をまねくため避けましょう。また、ウレタンは燃えやすい素材のため、直火や温度の高いものに近づけないようにしましょう。クッションの種類によって取り扱い方法は様々です。詳しくは、商品に付属されている取扱説明書をご参照ください。

Ⅲ シーティングの基礎知識

１．シーティングで注意する点

いくらよい車いすや座クッションを選んでも、それらを自分の体に合うように調整しなければ快適に車いすを利用することはできません。より使用者が乗りやすく、快適に使用できるよう車いす上での姿勢をきちんと調整することをシーティングと言います。

（１） 姿勢よく座れる車いす（安定性、安楽性）にすること

車いす上で身体をある程度動かしても後ろや前にひっくり返らない安定性と、長時間楽に乗車できる安楽性が同時に保たれていて、姿勢よく乗れる様な調整が大切です。

（２） こぎやすい車いす（機動性）にすること

駆動時の効率を高め、車いすをこいだときの軽さのみを追求して調整すると、後方へ転倒しやすい車いすになってしまうことがあります。車いすへの慣れや自分の操作能力の変化などに合わせた調整が大切です。

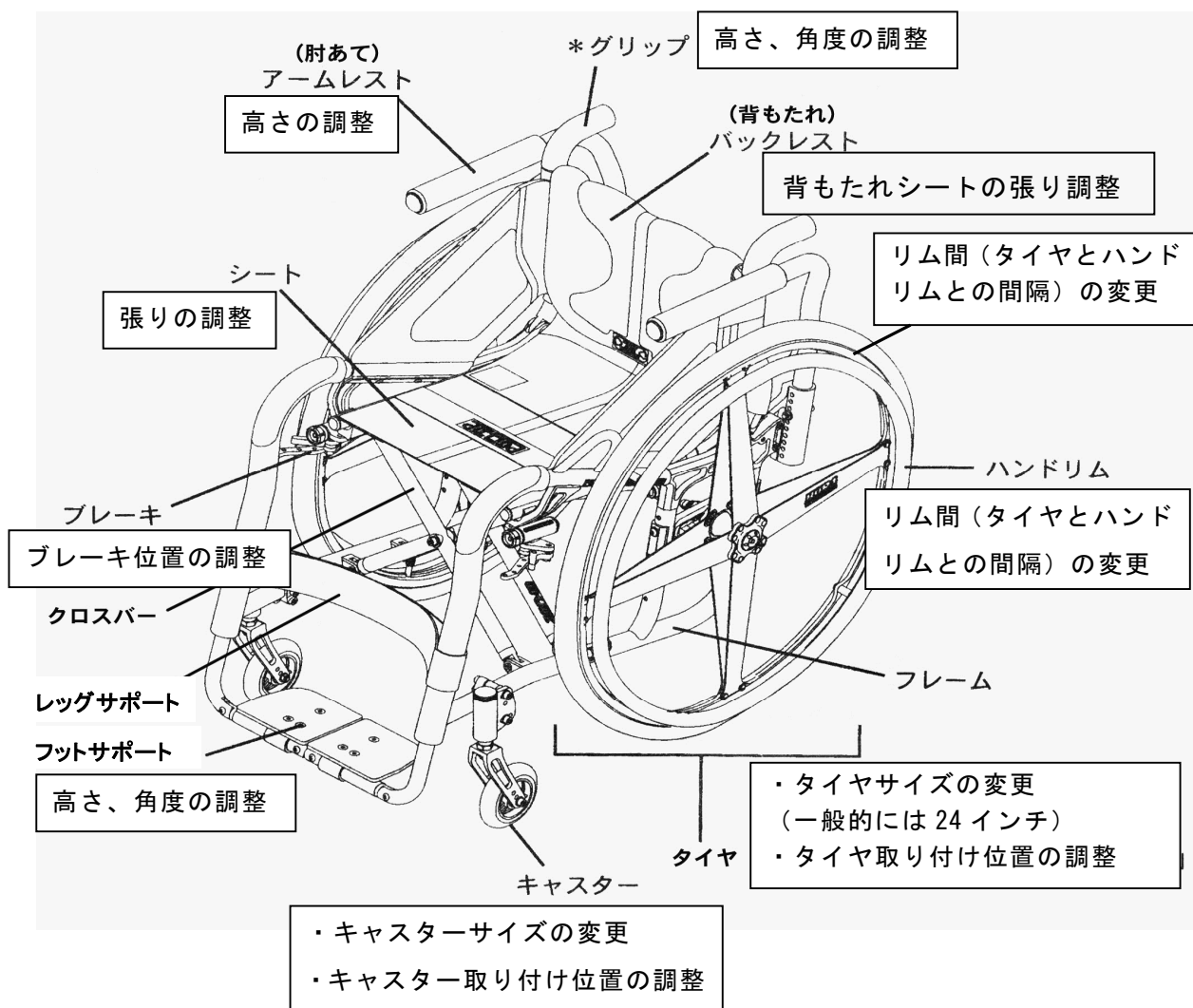
（３） バランスがとれた車いすにすること

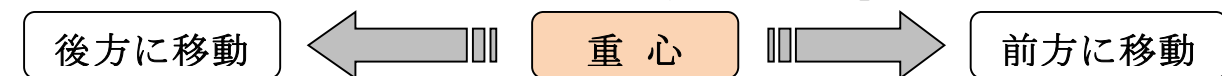
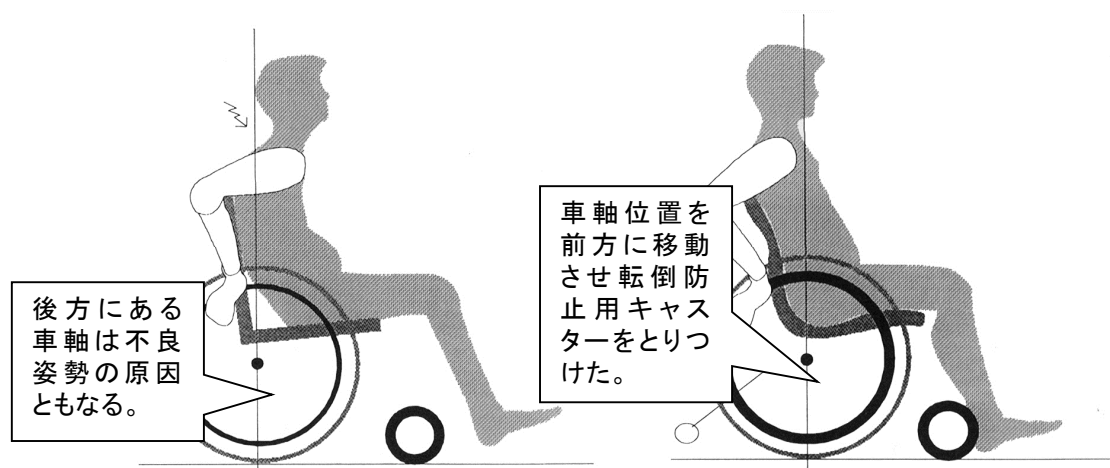
シーティングでは長時間座っていられる安楽性や転倒しにくい安定性、速くかつ楽に動ける機動性を使用目的に合わせ、バランスのとれた車いすに調整することが大切です。

２．モジュラー型車いすの調整

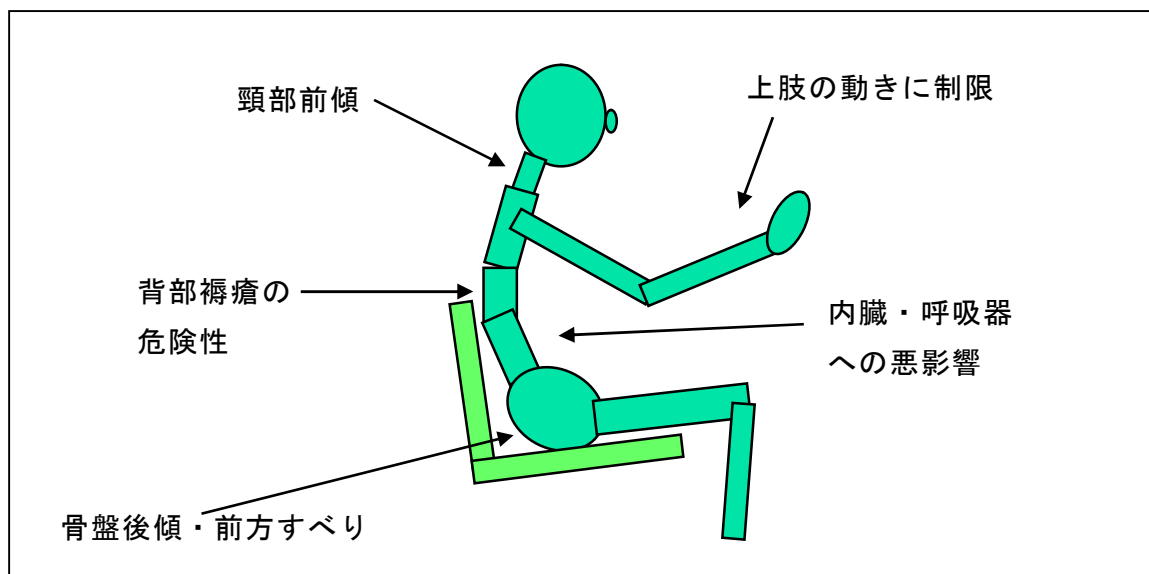
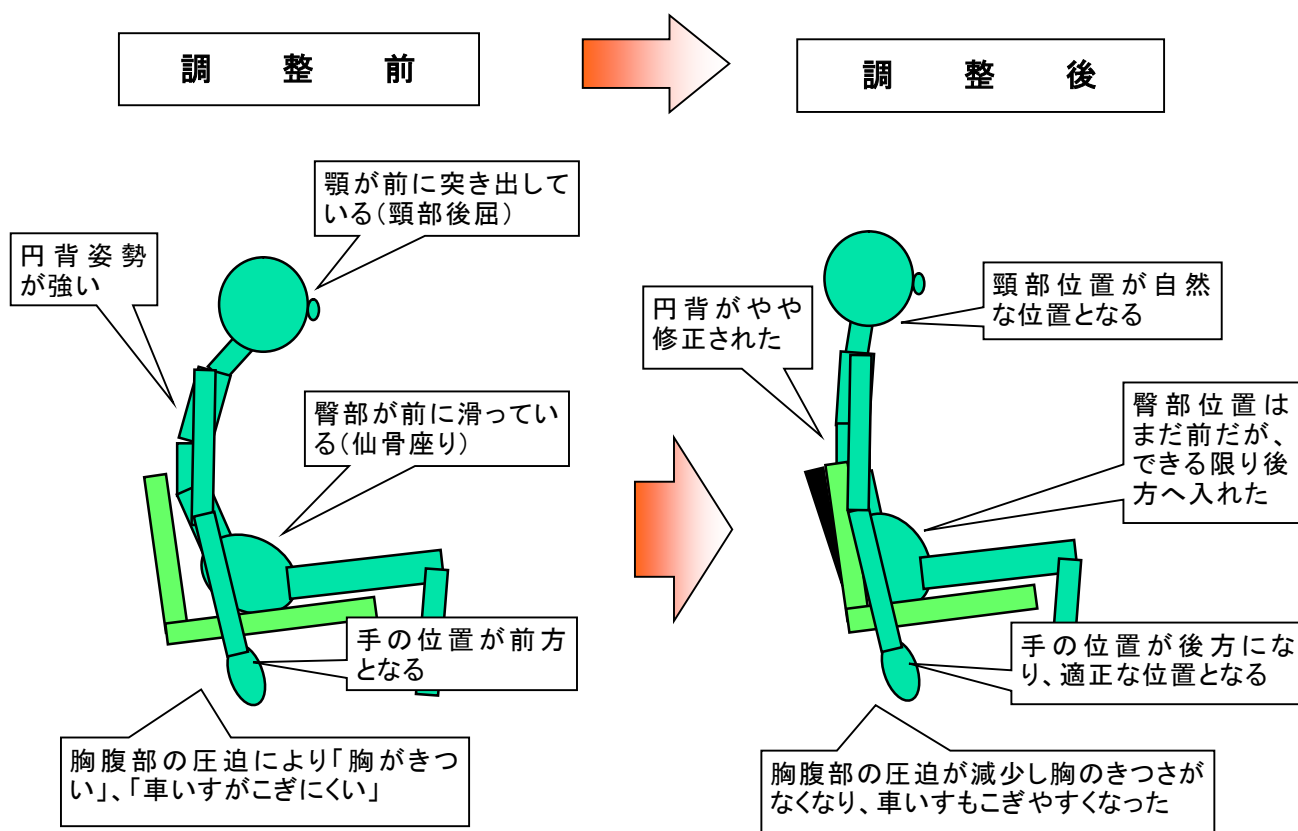
モジュラー型車いすは、シーティングだけではなく、車いすの走行性能に関しても購入後に変更が可能です。具体的には、車軸位置の変更により安定性を重視するか、機動性を重視するかなどを自分の操作能力や好みに合わせて調整することができます。また、自分の身体状況やADL動作が変化すると、車いすも再調整が必要となる場合があります。

車いすの車種によって、調整可能な箇所が異なるため、どのような調整を希望し、またそれが適切かどうかについては専門家にご相談ください。

（参考1）モジュラー型車いすの主な調整可能箇

（参考２） 車いすの調整箇所ごとの重心の変化について」

後方に移動 重　心 ⇒ 前方に移動

変更内容	車いすの調整箇所	変更内容
後側に移動すると、 ・駆動輪に荷重がかかる ・こぐのが楽になる ・後ろに転倒しやすくなる	車軸の位置	前側に移動すると、 ・ｷｬｽﾀｰに荷重がかかる ・こぐのに力が要る ・後ろに転倒しにくくなる
後方に傾斜させる	座面の傾き	前方に傾斜させる
後方に傾斜させる	背もたれの角度	前方に傾斜させる
厚いクッション使用	座クッション	薄いクッション使用
薄いクッション使用	背もたれクッション	厚いクッション使用
小さくする	タイヤの直径	大きくする
高く前方に取り付ける	タイヤの取り付け位置	低く後方に取り付ける
大きくする	キャスターの直径	小さくする
長めにする	キャスターフォークの長さ	短かめにする
90度より大きくする	キャスター取付角	90度より小さくする
体の後ろに置く	バッグ・荷物の場所	体の前に置く

（Bengt Engstrom：からだにやさしい車いすのすすめ，三輪書店，1994 より）

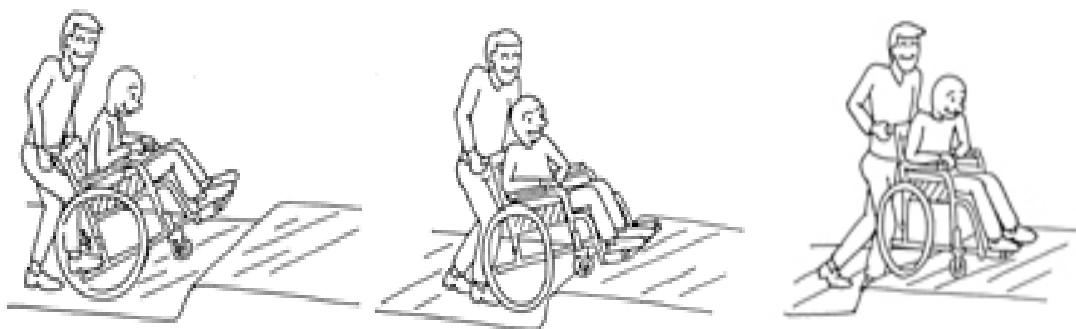
3. 不良姿勢とシーティング

（1） 頸髄損傷者にみられがちな座位不良姿勢例

（2） シーティングによる変化

Ⅳ　車いすの基本的な介助方法

外出先では家族や他者の介助を必要とする場合があります。障害の種類や程度などにより、介助の仕方も一様ではありません。基本的な介助方法を理解しておきましょう。

（1）段差昇降時の介助方法

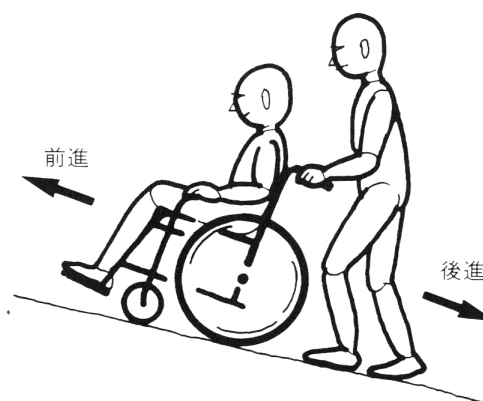
【段差を上るとき】

① 介助者はグリップを押し下げ、キャスターを上げます。
② キャスターを上げたまま前に進み、キャスターをゆっくりと上の段に乗せます。
③ 駆動輪が段にぶつかったところで体を車いすに近づけて駆動輪を押し上げます。このとき、駆動輪を持ち上げ過ぎると車いす利用者が前に倒れてしまうことがあるので注意してください。

【段差を下るとき】

① 介助者は、車いすを後ろ向きにして駆動輪から静かに下ろします。
② グリップを押し下げ、キャスターを上げながら車いすを後進させます。
③ 段差から離れ、段差の端に足やつま先をぶつけないように静かにキャスターを降ろします。
④ 最後に車いすの向きを戻します。

（2）坂道での介助方法

【坂を上るとき】

介助者はグリップを押して前進します。同時に自分の身体を少し前に倒し、車いすの重さで押し戻されないように一歩ずつしっかりと押していきます。

【坂を下るとき】

車いす利用者が不安を感じる程度の下り坂では車いすを後ろ向きにして、グリップをしっかりと握り、膝を曲げながら後ろに障害物がないか確認しながら一歩ずつ下ります。

(3)不整地での介助方法

砂利道や平坦ではない道を走行するときは、平地と同じように介助すると、キャスターが引っかかったり、はまり込んで動けなくなってしまうことがあります。このような時は、車いすの後ろに立ってグリップを押し下げ、キャスターを上げた状態で進んでいくことで、障害物を乗り越えながら走行できます。

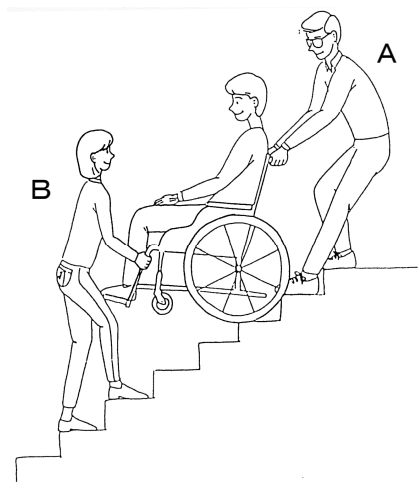
(4)階段昇降の介助方法(介助者2名の場合)

車いすでの階段昇降介助は危険が多いため、必ず2名以上の複数人数で介助するようにしましょう。

【階段を登るとき】

① 階段を背にした状態で、車いすのブレーキをかけます。上方の介助者Aは後ろ向きに立ってグリップを持ちます。もう一人の介助者Bは、車いすの正面に立って車いすのフレームの前下部を持ちます。

② 介助者Bはキャスターを持ち上げた状態を保持します。このとき、車いす利用者が前に倒れないよう、背もたれ側に体重をかけておきます。

③ この状態で、介助者AとBが声をかけながらタイミングを合わせ、階段を一段ずつ上がっていきます。

【階段を下るとき】

上りと同様に、介助者は車いすの上下に位置して介助します。介助者Bは、車いす利用者が前に倒れないように臀部より膝が高くなる位置でフレームを掴み、キャスターを持ち上げるようにします。

（参考）公共交通機関の利用

（1）電車の利用

① 車輌に乗り込む際に、ホームとの段差や隙間が大きく、ホームに備え付けられているスロープなどが必要となる場合があります。電車を利用する時は、あらかじめ各鉄道会社に連絡し、駅員の配置などを依頼しておくとよいでしょう。

② 電動車いすで車輌内を移動する場合は、低速で行いましょう。車いすスペースのある電車では、なるべく車いすスペースを利用しましょう。

③ 全国各駅のバリアフリー情報や乗り継ぎ案内は「らくらくおでかけネット」（http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/）を活用すると便利です。

（2）飛行機の利用

① 各航空会社へあらかじめ連絡を入れておきましょう。事前に歩行が可能かどうか、介助が必要かどうか、車いすの種類や仕様（全長、全幅、全高の寸法、重量、折りたたみの可否、電動車いすであればバッテリーの種類など）を申告する必要があるため、自身の使用している車いすの仕様を確認しておきましょう。

- JAL　プライオリティ・ゲストサポート http://www.jal.co.jp/jalpri/
- ANA　スカイアシスト　http://www.ana.co.jp/share/assist/03.html
- スカイマーク　http://www.skymark.jp/ja/support/support3.html

（3）路線バスの利用

ノンステップバスやリフトバスの利用が便利です。利用できる路線や運行状況はそれぞれのバス会社で異なるため、事前に確認して使用しましょう。

（4）タクシーの利用

① 車いすの外出支援「ウエイク・ガイド」 http://www.wake-guide.net/

② 全国介護福祉タクシー検索

「ケアータクシーガイド」http://www.caretaxi.net/

「日本福祉タクシー協会」 http://www.fukushi-taxi.com/

③ 市町村によっては福祉タクシーの助成券の交付を受けられる場合があります。詳細は、各市町村の障害福祉の窓口で確認してください。

国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局
別府重度障害者センター
（支援マニュアル作成委員会編）

〒874-0904　大分県別府市南荘園町２組
電話：０９７７－２１－０１８１
ＨＰ:http://www.rehab.go.jp/beppu/
初版　平成２６年３月発行
改訂